

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	淀川区
学 校 名	木川南小学校
学校長名	山内 伸作

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立木川南学校では、第6学年 16 名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率では、国語、算数共全国平均・大阪市平均を上回った。国語では、全国平均正答率を4.3ポイント、大阪市平均正答率を5ポイント上回った。算数では、全国平均正答率を10.6ポイント、大阪市平均正答率を12ポイントと大きく上回った。無回答率は、国語で全国無回答率を1.5ポイント、大阪市無回答率を0.6ポイント低く、算数では全国無回答率を1.4ポイント、大阪市無回答率を1.2ポイント低かった。無回答率が低いことが、全国平均と大阪市平均を上回ることができた要因とも考えられる。

質問紙調査からは、生活習慣がしっかり身についていることで学校生活を落ち着いて過ごし、学習できていることがわかる。今後も安心して学習できる環境を子どもたちに提供していくことが、学力向上につながると考えている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

領域別では、6領域中5領域で全国平均正答率を上回った。「情報の取り扱い方に関する事項」では全国平均正答率を0.6ポイント、大阪市平均正答率を2.5ポイント上回った。しかし、「書くこと」については全国平均正答率を12.1ポイント、大阪市平均正答率を9.6ポイント下回った。資料から情報を得たり活用したりすることはできているが、条件に即して決められた文字数で文章をまとめることに課題がある結果となった。思考ツールを使い、主体的、対話的で深い学びをめざし、段階的に意見や感想を文章に表現する実践を行っているが、まだ大きな成果には至っていない。

〔算数〕

領域別では、4領域中4領域のすべてにおいて全国平均正答率を上回った。特に「数と計算」「図形」「変化と関係」では大きく上回る結果となった。一方、「データの活用」では、グラフや表からデータを読み取り、解答を導く問題には課題がある結果となった。しかし、他の領域では、一人ひとりがじっくり問題に取り組む姿勢を身に付け、一つ一つの問題に理解を深め丁寧に続けることで成果に表れたと考えている。

質問調査より

「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の項目で肯定的に回答している児童が多く、生活習慣が身に付いていることがわかる。「学校に行くのは楽しいと思いますか」の項目においても肯定的に回答している児童が75.1%と多い。普段から学校生活を楽しみ、意欲的に学習している様子が見られ、質問調査の結果からも表れている。その反面、日常的に一人一台端末を使用しているが、質問調査の結果から「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目では、使用頻度が低かったことが分かった。学習場面でどのように使用を進めるか、校内での検討が必要である。今後、学習面での活用方法を検討し使用頻度を上げることが課題である。

今後の取組(アクションプラン)

3年間、思考ツールの研究を実践する中で、学習活動において、自分の意見を発表することができる児童が増えてきた。今後も自分の考えを深めたり、広げたりという力をより一層培っていきたい。また、自分の考えを文章に表すことにも重点を置き、学習展開を進める。一方で一人一台端末を学習中にどのように活用するかについても校内での実践と検証を進めていく。一人ひとりが自分の良さに気づき、「学校って楽しい」「友だちと遊ぶのが好き」「学ぶことがおもしろい」そんな子どもたちの声が聞こえる学校運営を進めていく。本校は一人ひとりの児童を尊重し、誰もが安心できる学級・学校づくりに努めてきた。自律的な生活規律、学習規律を創り出す集団の土壌を耕し、共に学び、共に伸びていく喜びを感じることでできる学級・学校づくりをさらに進めていく。